

えているが、全体的にみて前者に基づくものであることがわかる。用語、文体はよく似ており、ほとんど同一の文章が記されている箇所もある。従って、このことから逆に、従来不明とされてきた無名氏は鷗外であったと推定できるのであるが、この推定にはもう一つの有力な根拠がある。

鷗外の「明治三十一年日記」(岩波版『鷗外全集』第三十五巻。昭和五十年一月)には次のような注目すべき記述がある。

一月十五日「大村西崖、白井雨山来り訪ふ。西崖と與に西洋美術史を講ず。夜半に至りて辞し去る。」

二月十九日「大村のために西洋美術史を講ず。」

二月二十四日「大村の史稿を閲す。」

七月二十日「大村來る。西洋美術史の稿を繼ぐ。」

七月三十一日「泰西美術史を校す。」

九月十一日「西洋美術史を校し、……」

これによって彼が大村西崖とともに何らかのかたちで「西洋美術史」を刊行しようとしていたことがわかる。この日記には他に「洋画手引草」、「希臘諸神伝」、「芸用解剖学」(以上は『美術評論』に連載)、「審美綱領」等の執筆に関する記述もあり、それらは孰れも後に鷗外と他者の共編による単行本として刊行されるが(『希臘諸神伝』は大村西崖編『希臘羅馬諸神伝』として刊行)、「西洋美術史」は刊行されていない。とすれば、日記に登場する「西洋美術史」は『美術評論』連載のそれ以外には考えられないのである。かくて、無名氏と

は鷗外あるいは鷗外と西崖であったと推定される。連載が中断されたのは鷗外が小倉に赴任し、西崖も『美術評論』から手を引いたためであろう。

### 黒川真頼の「歴史」講義

黒川真頼は開校当初から「歴史」講義を担当し、美術を中心とした日本史を講じた。関連資料として左記の講義筆記が現存している。

#### ①「大日本美術歴史筆記、文学博士黒川真頼先生口授」

これは第一回入学生小島光真の筆記ノート「明治二十二年二月備忘録」中に含まれているもので、内容は美の字義、天地開闢と美醜の觀念の發生、神代、天孫降臨より齊明天皇までの美術(記紀等文献に基づく)を中心とした歴史である。

#### ②『歴史講義筆記』一冊

これは明治二十二年に田口騏次郎(巻末の職員任免表を参照)、加藤直種(同上)ら職員が筆記したもの。本学附属図書館蔵。内容は一とはほぼ同一であるが、こちらは継体天皇の代で終わっている。

#### ③「日本歴史自武烈天皇 至仁明天皇」一冊

菅紀一郎が普通科第一年または第二年のとき、即ち明治二十二年度または二十三年度に筆記したもの。仁明天皇以降の部分に関する筆記の断片も残っている。

#### 四、「歴史」二冊

原安民が普通科第二年のとき(明治二十四年九月〜同二十五年七

月)筆記したノート。第一冊は推古天皇十一年衣冠制定より慶雲四年文武天皇崩御まで(第一、第二講)、第二冊は元明天皇から高倉天皇まで(第十三、第二十五講)である。

①のノートには黒川真頼の「歴史」講義に於ける第一声が次のように記録されている。

大日本美術歴史筆記 文学博士黒川真頼先生口授

第壹回

私ハ黒川真頼ト申シマスガ今度東京美術学校ノ教諭ヲ命ゼラレマシタニ由リ今日ヨリ和文ト美術歴史ヲ教授致ス都合テ御座サリマスガ先「ズ」今日ハ本モ皆ソロヒマセスカラ一寸美術ノ美ノ字ヲ解剖致シテ見レバ則チ羊ト云フ字ト大ト云フ字ヨリ成リテ之レ大ナル羊肥タル羊ト云フ字ナリ肥ヘ太リタル羊ハ之レヲ食ベル片ハウマキトハ誰シモ同一ニシテ則チ美ト云フ字ハ此ノウマイト云フトヲ含ミ居ルモノデアリマスガ只ウマイノト云フヲノミデハ美術ノ美ト云フトハ言ヒツクセマセンソレナレバドノ字ガヨキカト問フ片先ツ此字ヨリ外ニハ字ガアリマセン而テ其ノ言ヒタラント云フ処則「チ」眞ノ美術器ト云フモノハ之レヲ見ル人ハ鬱スルモ悲シ「ム」モ怒ルモ皆敬シテシマウト云フモノガ眞ノ美術品ノ性質ト云フモノデアリマス

日本美術歴史

歴史ノ発端ハ我国開闢ヨリシテ之レヲ云ヘバ先ツ世ノ中ハ蒼々タル青空ニシテ其ノ内一物ダモナカリシニ始テ其ノ内ニ一物ヲ生

ズ其ノ様恰モ水面ニ油ノ一滴ヲ浮ベタルガ如ク漂々タルモノニテ形ハ云フベカラズト雖モ決シテ活動ナキモノニ非ス此ノ物始メテ此ノ蒼天大虚空ノ眞中ニアラハレタリ而シテ其ノ中ノ清キ分ハ天トナリ汚穢ナルモノハ地トナリテ始メテ日球(天ノ事也)ト地球トヲナセリ故ニ日球ハ尤モ清キ世界ニシテ地球ハ清汚相半スルノ世界ナリ又其ノ尤モ汚ナル一部分ハ月トナリタルナリ且又月ハ潮水ニ関カツ(管轄か)スルヲ以テ海水ヘ汚物ヲ流セバ皆月界ニ行クベシ

世ノ中ニ天地ヲ生シタル後ハ從テ又神現ハレタマエリ凡ソ神タルモノハ平凡ノ人多ク生シテ其ノ中ノ凡ナラザル人ヲ指シテ神ト云フフシビ或ハフシミト云フハ平凡ノ人ヨリハ之レヲ考察スベカラザルトヲ為シ得ルヲ云ヒ後世之レニ靈ノ字ヲ當テ靈妙ナルトヲ為シ得ルト云フ意ヲ以テ之レヲ附シタルモノナリ其靈妙ナルトヲ為シ得ルモノヲ神ト名称サテ其ノ神ノ御名ハアヌノミナカヌシノ神タカムスビノ神カミムスビノ神ト云フ西洋ニテハ之レヲ造物主トモ云フベシ我国ニテハ造化ノ三神ト云フ此神現ハレテヨリ種々ノ神ヲ生ミタマエ之レ等ノ神ハ男女偶生ナレバ男神ハ男タルノ用ヲナサズ女神ハ女タルノ用ヲナサザリシ遂ニイザナギイザナミノ神生レタマイテ始メテ此中ニ美ト云フモノガ生レ之レニ對シテ又ミニクキモノモ生出シタリ(以下略)